

# 「直江津に津波が…」の想定で総合防災訓練

上越市は4日、総合防災訓練を実施しました。今回は津波を想定しての訓練でした。

訓練は、「午前9時00分、新潟県南西沖でマグニチュード7.7、最大震度6弱の地震が発生、直江津地区に津波第1波が、地震発生10分後に到達、その後数回押し寄せる津波の最大波は3.1メートル」という想定で行われました。

今回の訓練は、港町を中心に実施されました。港町は、津波があった時にはそのほとんどが浸水、大きな被害を受けると想定される地域です。

居住人口は約890人ですが、訓練参加を要請された町民は役員を入れて450人、それぞれがあらかじめカードを渡されており、避難完了までにかかった時間を記入してい



ました。町内会の皆さんたちは、津波が実際にやってきたかのように、真剣な表情で訓練に参加していました。

訓練には自衛隊なども参加して、がれき処理訓練や避難に必要な諸設備などの開設、地元の皆さんたちによる避難所での炊き出し訓練など、総合的に行われました。

避難場所は、これまで市との契約によって、民間会社の社員住宅が「津波避難場所(ビル)」として指

定されていましたが、今回特に町内独自に古城小学校の屋上、佐渡汽船ターミナルなど5か所が設定されました。

災害は実際にあってもしくはありませんが、「必ず起きるもの」という認識が大事です。災害の発生そのものを止めることはできなくても、被害を最小限にとどめるために、日頃から「防災・減災のまちづくり」をすすめていく必要があります。



意見交換会では、「屋根の雪下ろしは楽しい。雪掘り道場を開設するといいいのではな

いかな」「集落から転出した人にも呼び掛けて、集落の草刈りボランティアをやってもらい、終わってから飲み会をやったらどうか」「子どもがほくほく線を利用して高校に通学しているが、駅までのバ

「中山間地でも働ける場所がほしい。中山間地で新しい雇用開拓の環境作りが必要ではないか」「長岡の越後丘陵公園のような公園がほしい」

「中山間地の山里、雪も降る里こそ遊び場になるのではないか」「雪をプラスに転じて、やる気のある若者が育つようにしたらどうか」などの発言が次々と出ました。

今回の意見交換会の議論の中には、今後の中山間地対策を考えるうえでいくつもヒントがありました。たとえば、「いきなり、中山間地に定住という難しい面もある。窓口をたくさん作ってあげるのもいいのではないか」という視点です。この視点で見たとき、中山間地域住民と都市部住民との幅広い交流の大切さが浮かび上がってきます。

橋爪委員長は、「中山間地域の将来があるかどうかは若い人たちがそこで暮らすかどうかにかかっている。今回はとても有意義だった。今後の委員会活動に役立てていきたい」と話していました。



## 若い人たちと初の意見交換会―中山間地対策特別委員会

# 「雪をプラスに転じて、やる気のある若者が育つようにしたら」「などの発言も

市議会中山間地対策特別委員会(橋爪法一委員長)主催の「若い人たちとの意見交換会」が、先月29日、安塚コ

ミュニティプラザで開かれました。会には大島、安塚、牧、浦川原、清里などから13人が集まり、中山間地域の今後について熱い議論が行われました。

「中山間地でも働ける場所がほしい。中山間地で新しい雇用開拓の環境作りが必要ではないか」「長岡の越後丘陵公園のような公園がほしい」

## 原発ゼロへ上越でも集会デモ行進

### 日本共産党上越市議員団ニュース

No.343 2012年11月11日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

あなたもぜひご参加を

日時：11月11日(日)

14:00~16:00

場所：かに池公園

主催：つなげよう脱原発の輪  
上越の会